

ポスト・コロナ状況における 学校・先生方の困りごと調査



結果報告
森田愛子
太田淳平・藤原由佳

『「コロナ」から学校教育をリデザインする』



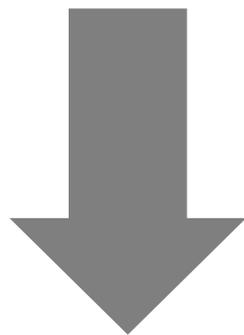
第1章2節 「コロナ禍の学校教育への調査」

(1) 2020年度に実施されたアンケート調査のレビュー

(2) 2020年4月に実施した緊急アンケートのフォローアップアンケート

(3) リデザインへの要望

2020年4月 緊急アンケート



COVID-19に伴う休校問題を考える
－大学の支援活動に関するニーズ調査

2021年4月 フォローアップアンケート

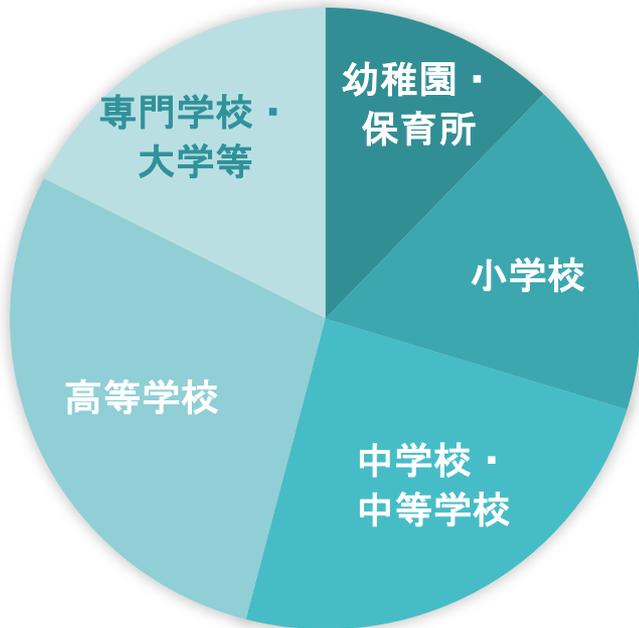
ポスト・コロナ状況における
学校・先生方の困りごと調査



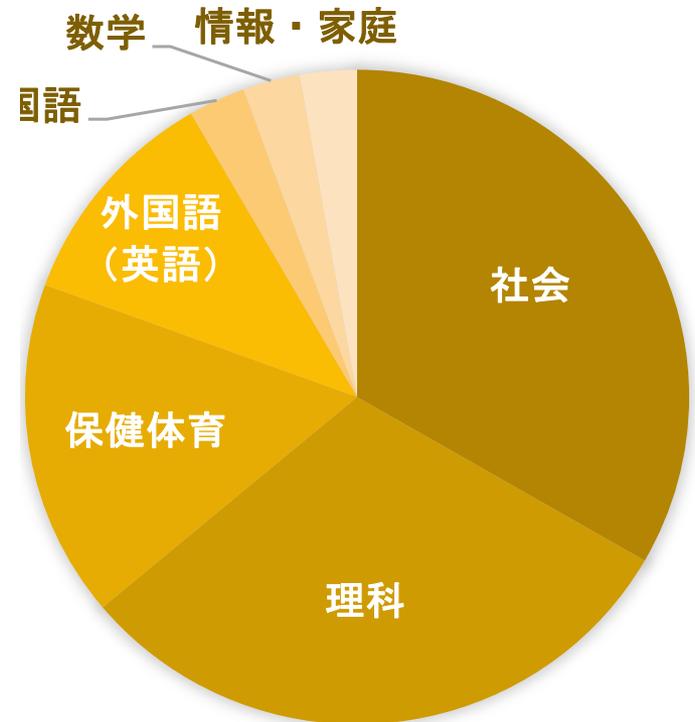
ご回答くださった先生方75名



校種



担当教科



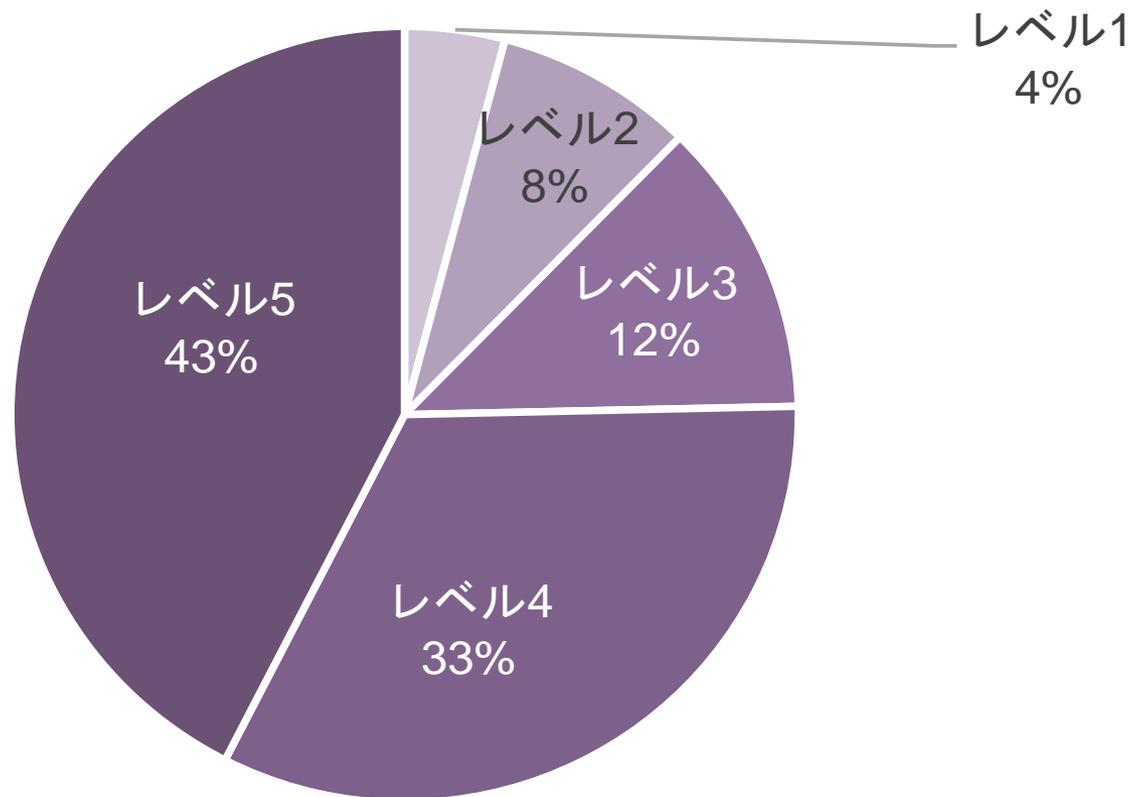
※中学校, 中等学校, 高等学校のみ

ありがとうございました。

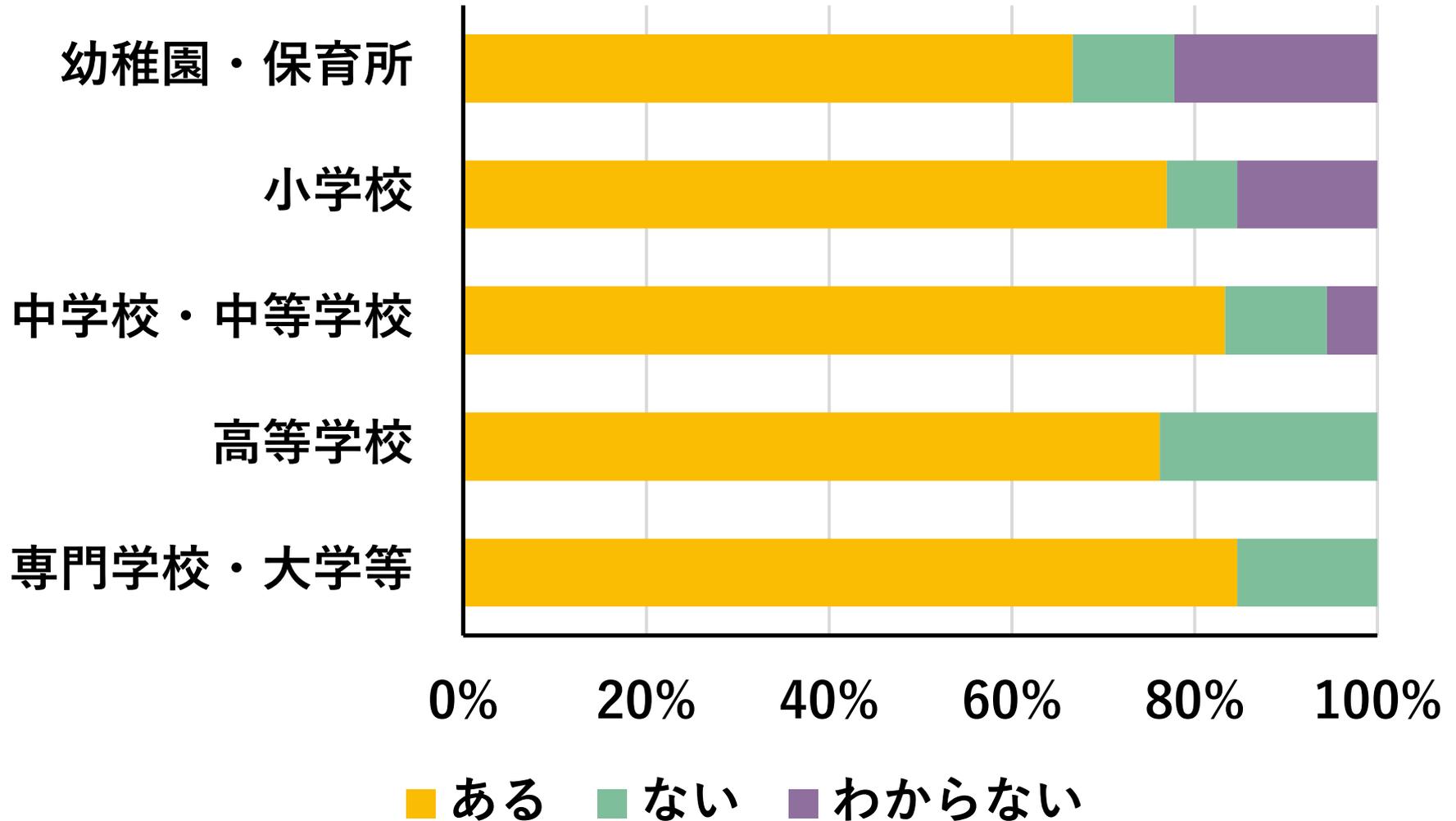
現在の学校における
コロナの影響

—困っていること—

困難さ（2020年4月には）



困っていることがある？

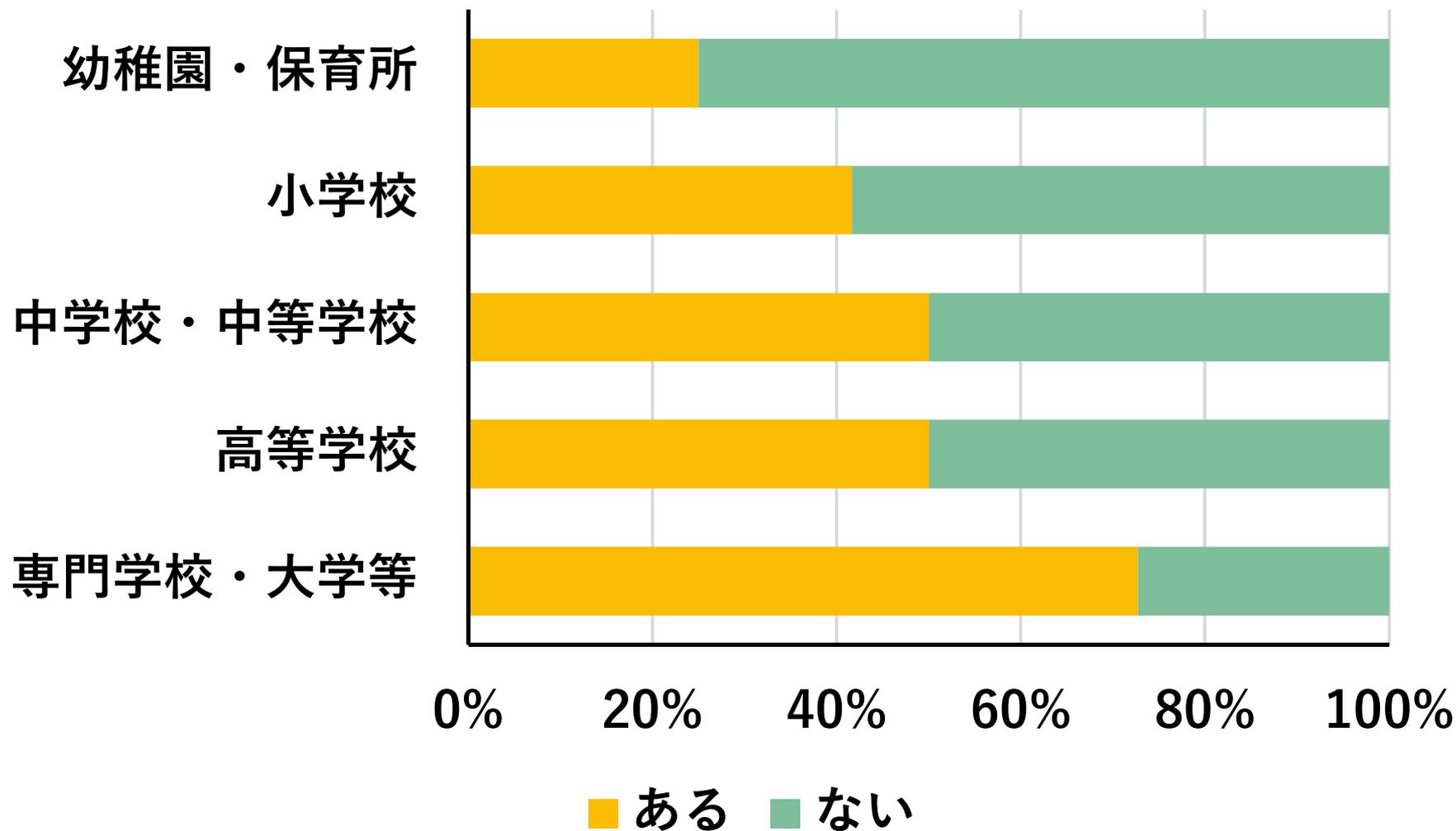


困っていることがある？



- (1) 学力面
- (2) 授業実施
- (3) ICT対応
- (4) 児童生徒指導
- (5) 教員側の不安・負担

学力面



学力面（2020年4月には）



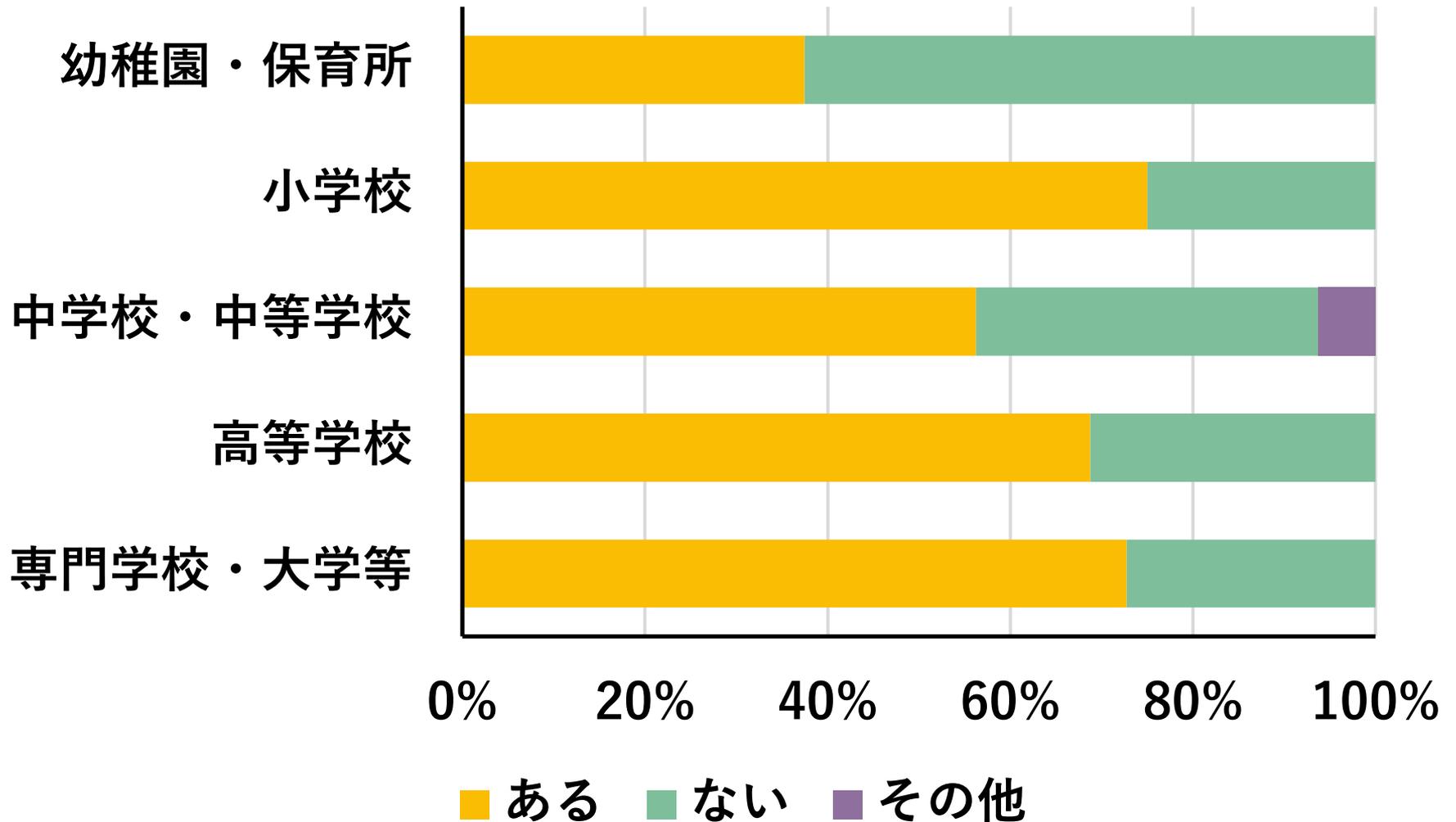
- ◆ 授業の進度の遅れを限られた時間数でいかにこなすか。
- ◆ 休校明けに再開されたとして授業時間数の確保が困難。
- ◆ 授業の見通しが立たず、内容を終わらせられるのか不安。
- ◆ 課題プリントをやることで学習したとみなしてもよい、と文部科学省はしているが、実際の現場はそんなことはできない。

学力面（内容）



- ◆ 授業進度の積み残し。
- ◆ 休校後、進度を急いだ。
- ◆ 行事が3学期にかたまったため、その対応と準備に追われ、授業や学習どころではなかった。
- ◆ 感染対策で欠席している生徒と登校している生徒の学力保障や評価の平等性。
- ◆ 実技指導の評価。

授業実施



授業実施（2020年4月には）



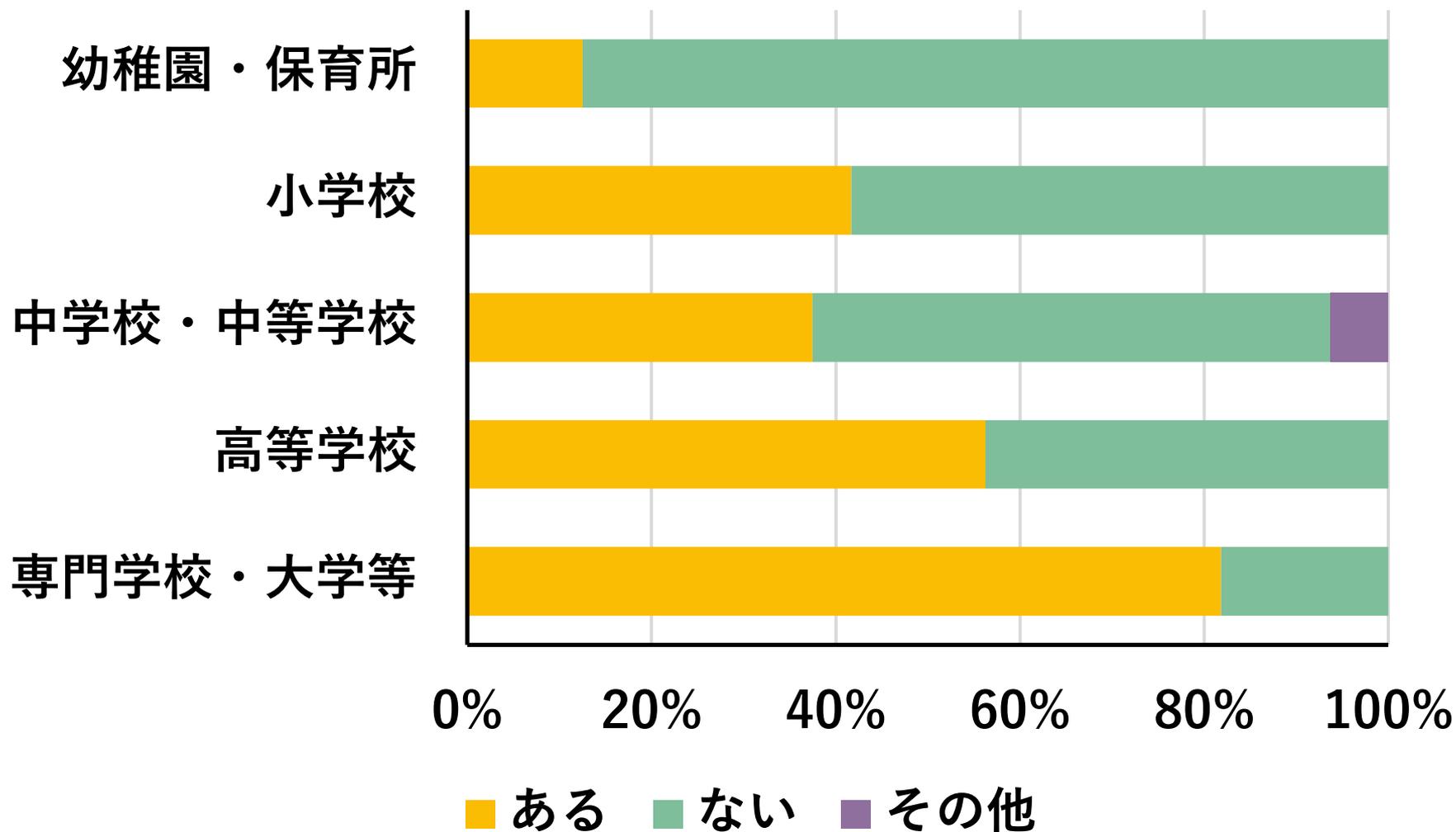
- ◆ オンラインでは、双方向でのやりとりが困難。
- ◆ 生徒がきちんと理解しているかがわからない。
- ◆ 各生徒が何を知りたいのかが、リアルタイムで知ることができないため、一方通行になりそう。
- ◆ やりとりから生まれる授業を展開できない。

授業実施（内容）



- ◆ 実習など、できない活動がある。
- ◆ 実技指導の内容。
- ◆ アクティブラーニングの方法が限られる。
- ◆ 意見交流の活動の設定の仕方。
- ◆ 活発に意見を言い合えない雰囲気。
- ◆ ゲストティーチャーなどを招聘できない。
- ◆ どこまで対策をすべきか、どこまで接触して良いのかわからない。
- ◆ オンラインに切り替わってもいいように準備し、進めるのが大変

ICT対応



ICT対応（2020年4月には）



- ◆ 生徒たちの在宅学習の環境がわからない
- ◆ 生徒全員がオンライン授業の環境下にはない。
- ◆ 結局、公平性の観点から、環境が揃わないとオンライン授業の実施に至らない。
- ◆ オンライン授業の視聴としてNHK for Schoolを勧めたが家庭のネット環境によっては視聴ができない（もしくははしない）生徒もいる。
- ◆ 家庭によって親がどれだけ子どもと過ごせるか（学習支援や精神面のケア）の差がかなり大きくなる。
- ◆ 公立中学校では、各家庭のネットワーク環境について未整備の状況もある。pcやタブレットも所有していない家庭もある。

ICT対応（2020年4月には）



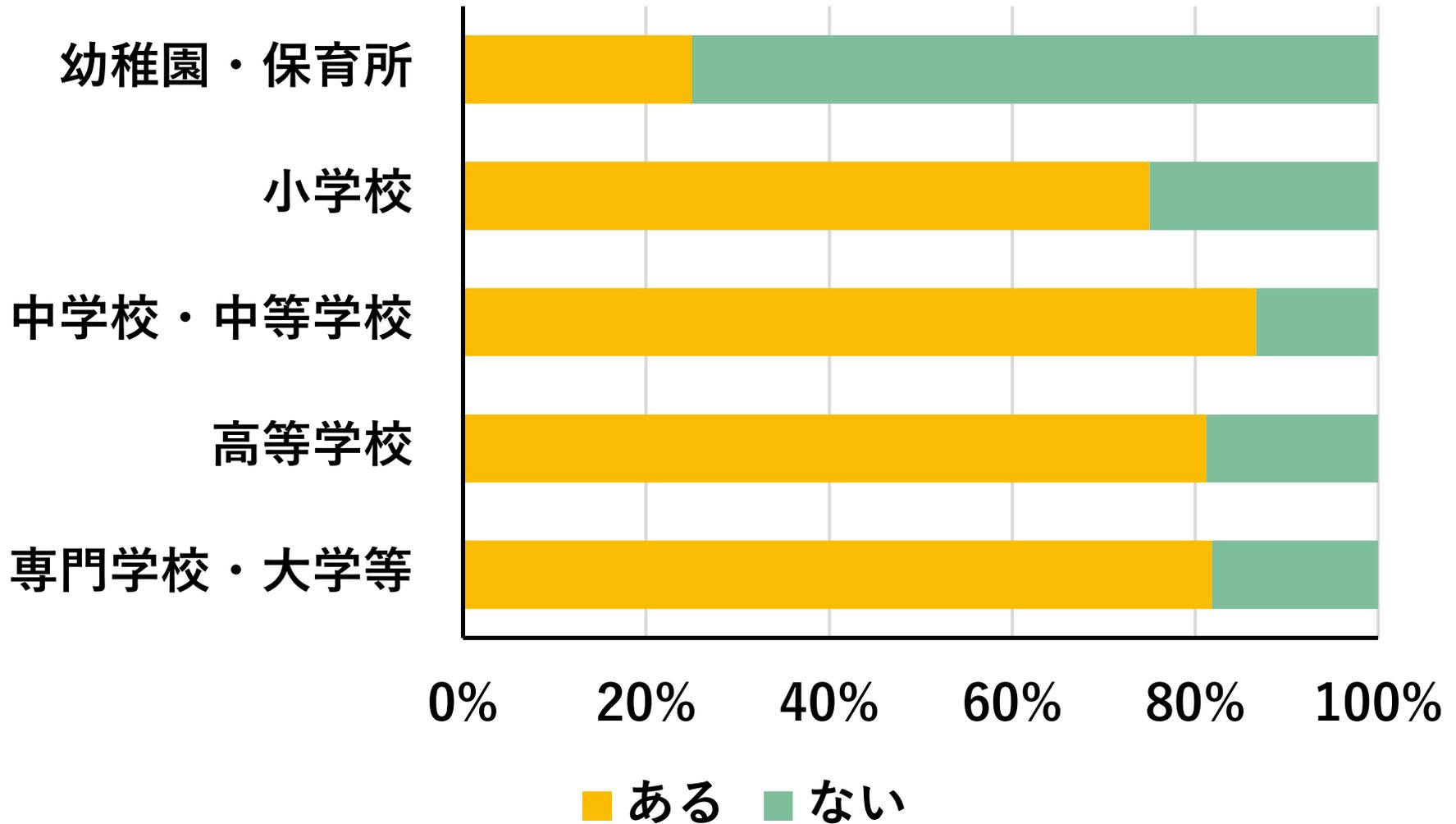
- ◆ オンライン授業を実施する場合の手続きとセキュリティ対策がわからない。
- ◆ オンライン化ための録画、録音、画面上の情報量の修正などの方法がわからない。
- ◆ 学校のオンライン授業配信の環境が無いこと。オンライン授業のノウハウが無い。
- ◆ 学校に割り当てられたオンライン授業を配信するための回線が一つしかないため、回数、時間とも不十分な授業となってしまう。

ICT対応（内容）



- ◆ 急激にICT対応を求められ、負担が増した。
- ◆ 急激にICT対応を求められ、教員も子どももスキルが追い付かない。
- ◆ 実践経験が少ないため、活用イメージが持てない。
- ◆ ディスカッションが盛り上がりにくい。
- ◆ 家庭によって学習環境に格差がある。
- ◆ 他の教員に教えるのが大変。

児童生徒指導



児童生徒指導（2020年4月には）



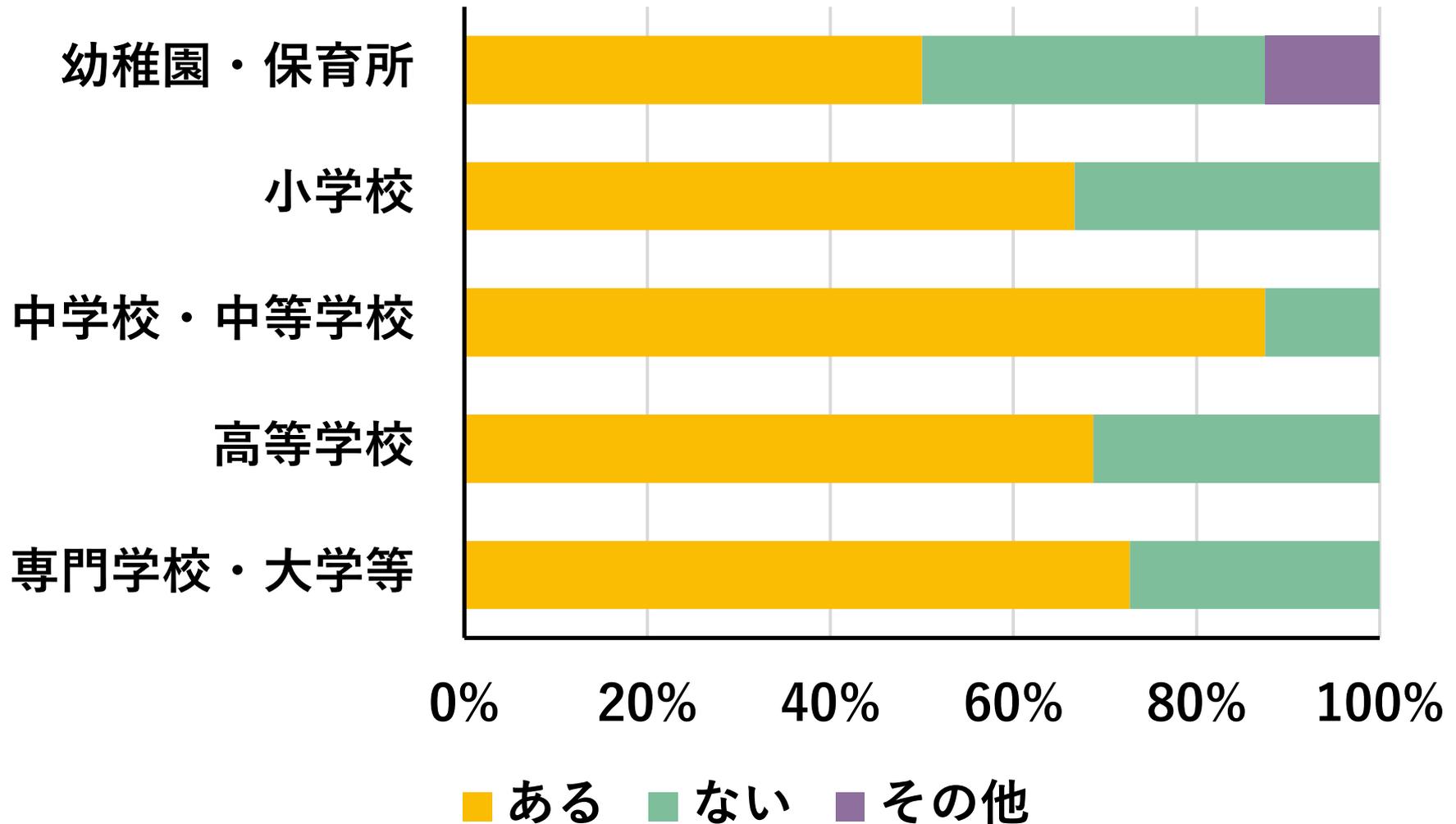
- ◆ 生徒の学力状況の把握, 生徒の心身の状況の把握ができない。
- ◆ 入学したてで, 入学式以降顔を合わせていない, 実態もわからない。
- ◆ 児童の状況把握、児童の家庭での過ごし方の把握が難しい。

児童生徒指導（内容）



- ◆ 不安を抱えている生徒が増えた。
- ◆ 不登校・怠学の増加。
- ◆ 行事の中止により、学校生活の充実度が下がってしまうのではないか。
- ◆ 行事・委員会・クラブなどの運営が変わり、学校としてのまとまりや所属感を得にくい。
- ◆ 行事等で培ってきたもの（社会性や異学年とのかかわり方など）の指導場面が減り、新しい場面の創出の必要性を感じる。
- ◆ 行事の企画，準備が大変。
- ◆ 欠席が多くなり，間に合わない。
- ◆ マスクの影響で，表情が読み取れない。対人関係に影響。

教員側の不安・負担



教員側の不安・負担（2020年4月には）



- ◆ 先の見通しが見えないまま過ごしている。
- ◆ 見通しが持てないため、指導が不安。

教員側の不安・負担（内容）

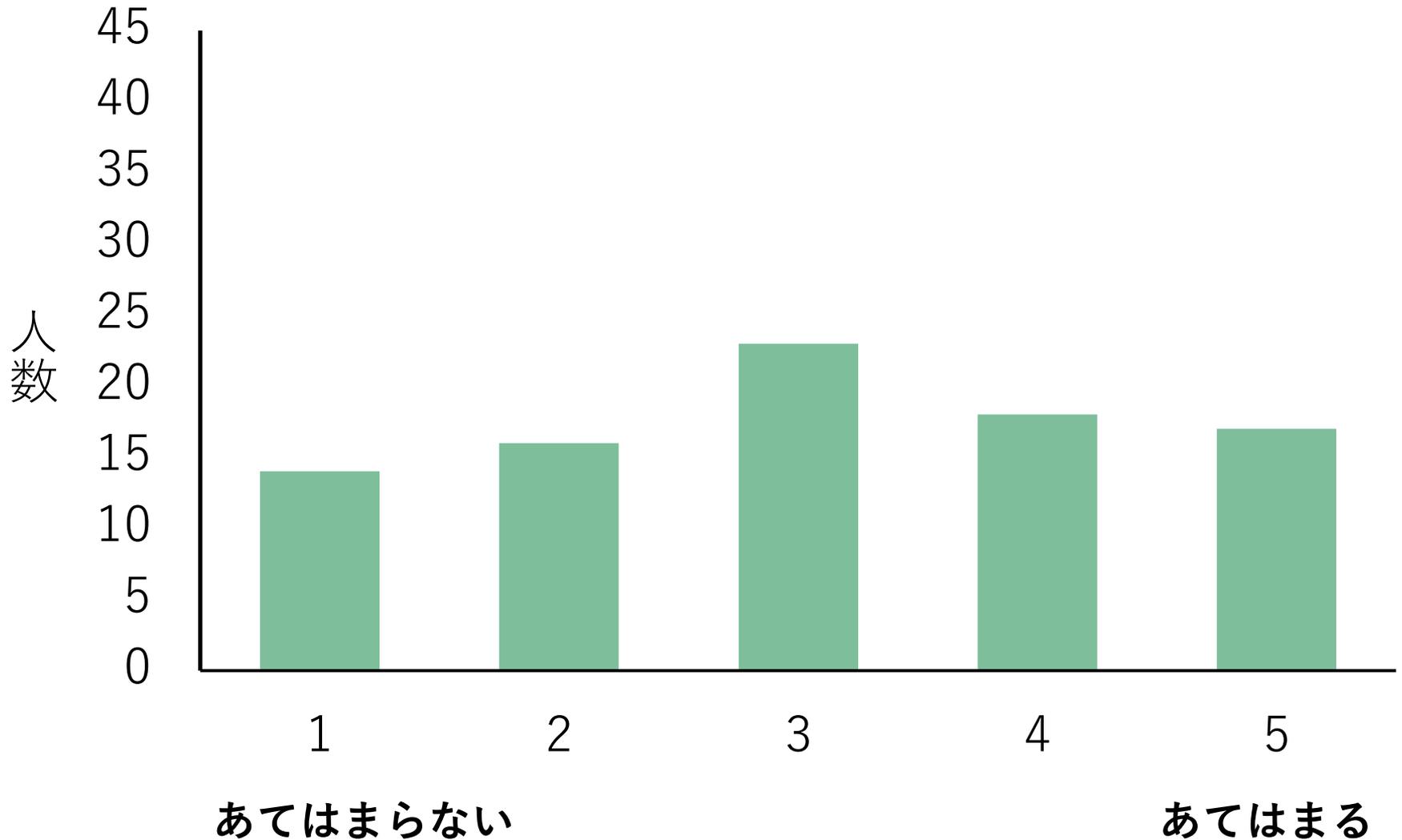


- ◆ 仕事量は圧倒的に増えた。
- ◆ 消毒, 清掃。
- ◆ 検温や, 体温の申告の提出確認など。
- ◆ 欠席者への対応。

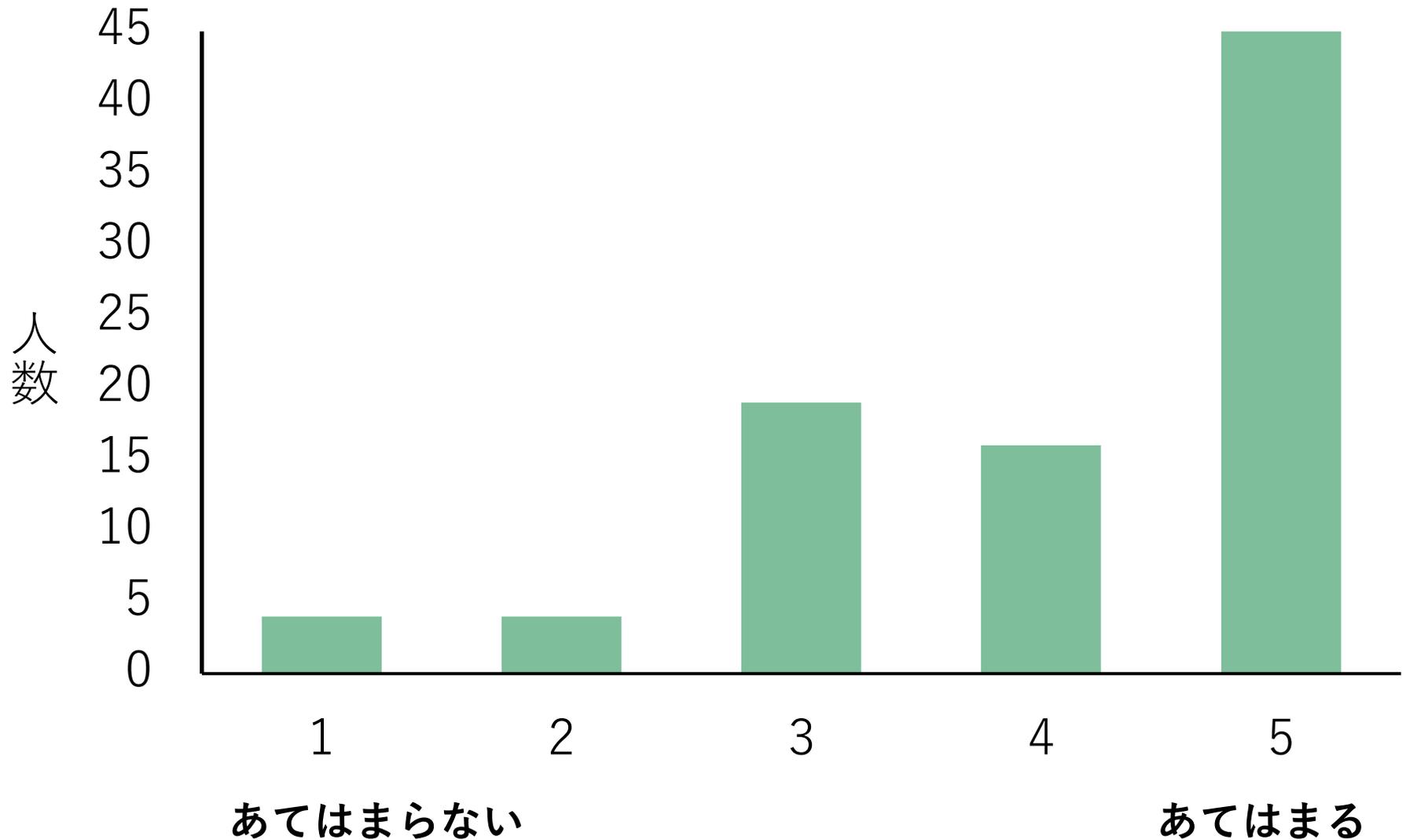
- ◆ 行政文書の増加。
- ◆ ICT対応への負担。
- ◆ 対面と遠隔の二重業務。
- ◆ 対面授業や会話の際の注意, 生徒指導。
- ◆ 行事の運営にこれまでとは違う計画を立てなければならない。

Redesigning?

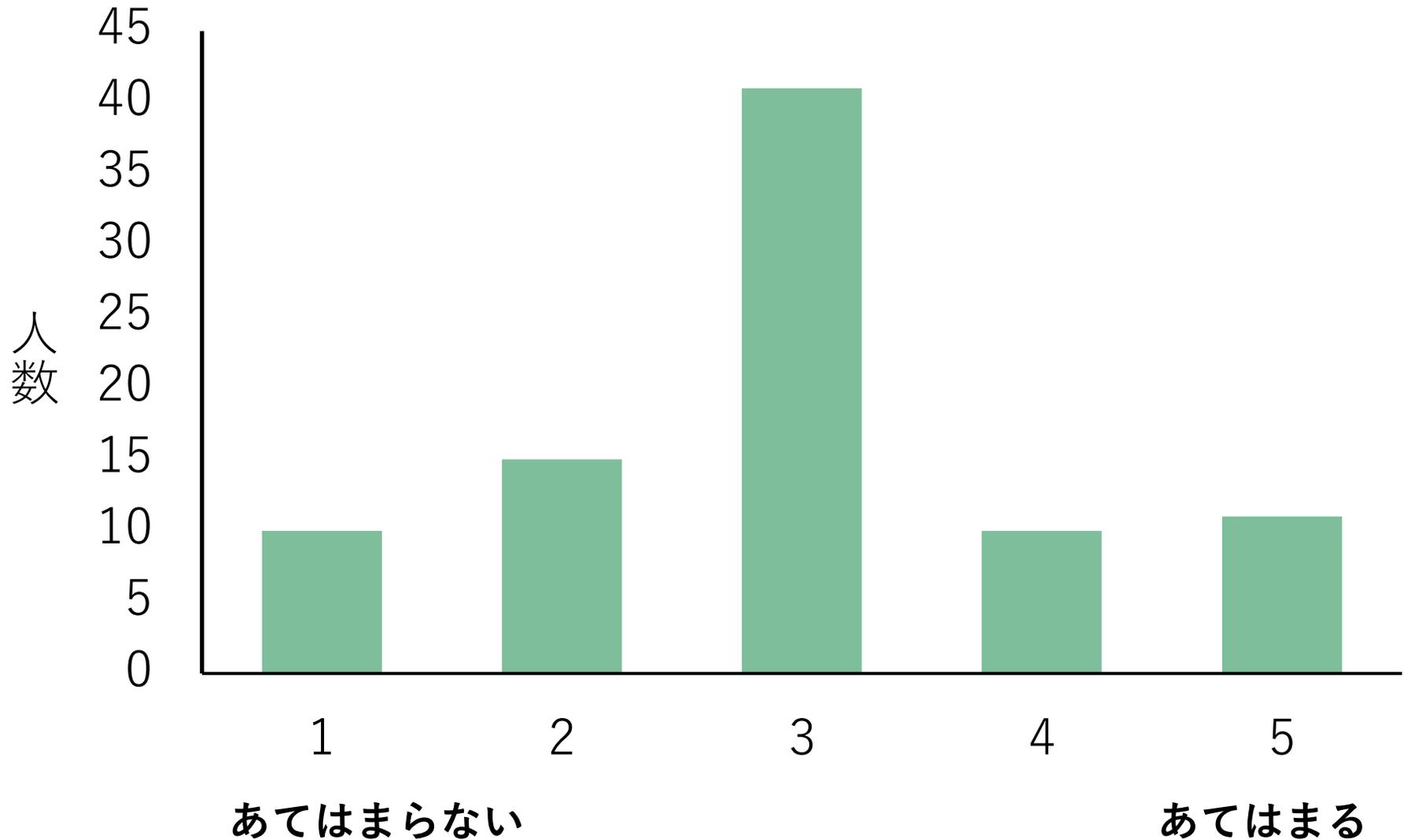
コロナの影響が発生する以前の学校に戻ることが望ましいと思う。



コロナの影響が発生する以前の学校ではなく、
新たな学校になるのが望ましいと思う。



今は、コロナの影響による問題への対応より、他のことのほうが重要だ。



Redesigning? 懸念



- ◆ 懸念は山ほどあるが、どうするべきなのか見当がつかない。
- ◆ 管理職のリーダーシップのもと、事業仕分けや実施方法を検討するなどをされなければ、実働する教員は負担感が増すと思う。
- ◆ 学校（校長）の自律性が試されていると思う。
- ◆ オンラインは格差が顕著に出たと思う。やる子はどんどんやるし、やらない子は全く野放し。社会における公教育の大切さを実感した。
- ◆ 端末利用に関する危険を避ける教育・研修ををもっと充実させる必要があると思う。（情報リテラシーなど）

Redesigning? ICT対応



- ◆ 困難もあるが、これまで放置されてきた教育改革が進んだのは良かった（ICT化や生徒の自主性を尊重することなど）。これらの点は後戻りさせたくない。
- ◆ 一時的に多大な負担がかかっているものの、中長期的には推進すべきであると考える。
- ◆ マイナス面だけでなく、デジタル教科書、視覚教材、ICT、VRなどの活用が進むことは良いと思います。

Redesigning? 学びの多様性



- ◆ 不登校に対してのオンライン授業は、可能性を感じた。
- ◆ 塾はすでに対面とオンラインを選べるようになって来た。学校でも対面、オンライン、どちらでも授業に参加できる柔軟性があるのも良いのかなと思った。
- ◆ 遠隔授業は、学生にとって、個々のペースで学習することが可能であることや、通学時間分落ち着いて学べることも可能になっているように感じる。
- ◆ 遠方でも学ぶ機会が広がったことも平等な学び方だと思う。

Redesigning? 価値観



- ◆ 困難（コロナ）を目の前に様々な工夫や価値観の変容が生まれたのも確かで、ここを大事にしたい。
- ◆ コロナによって、多くのことが見直された事実はあると思います。なので、これからもフレキシブルに色々なことに挑戦できる学校でいられることを願っています。
- ◆ コロナ禍で削減したり、精選したりした学校行事が、ポストコロナで復活してしまうことを危惧している。
- ◆ コロナを機に見直されてもよい学校の文化や慣習などはあったと思うが、学校の対応はコロナが落ち着くまでの対処療法的な時間稼ぎの感が否めなかったのが少し残念だった。

現在の学校における コロナの影響

—困っていること—

- 価値観の見直しや
業務改善の必要性
- 「ただ以前の学校に戻るよりは
新たな学校になることが望ましい」

ご清聴ありがとうございました